

新たに導入した植物の生育及び 開花状況

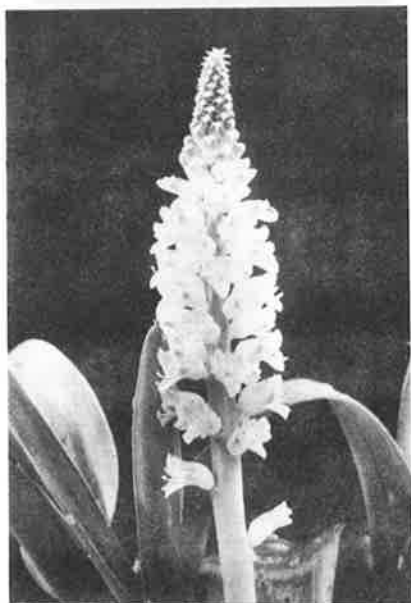
ラケナリア (*Lachenaria*) 2 種

機 部 実

1978年8月南アフリカ共和国キルテンボッシュ植物園よりラケナリア (*Lachenaria*) の種子2種 *L. pallida*, *L. unifolia* を導入した。同年8月22日に播種, 9月下旬に発芽を開始した。年内に移植(鉢上げ)し, その後成株と同様に管理した。*L. pallida* は'81年1月に開花し, *L. unifolia* は'82年2月に開花した。両種とも日本へ昭和初期に渡来しているがその後栽培はほとんどされていないようである。

L. pallida Ait.

原産は南アフリカ。球根(鱗茎)は大球性で直径2~3cmで白色扁平状。葉は2枚多肉質で長さ15~20cm, 幅2~3cmで基部で茎を抱く。花梗は緑色, 総状花序に小花を密につけ15~30cm伸びる。小花は斜上し, 白色~薄黄色, 先端は緑色を帯びる。外花被片は内花被片より短く, 雄蕊は外花被片および雌蕊と同長か短い。開花期は温室で1~2月。



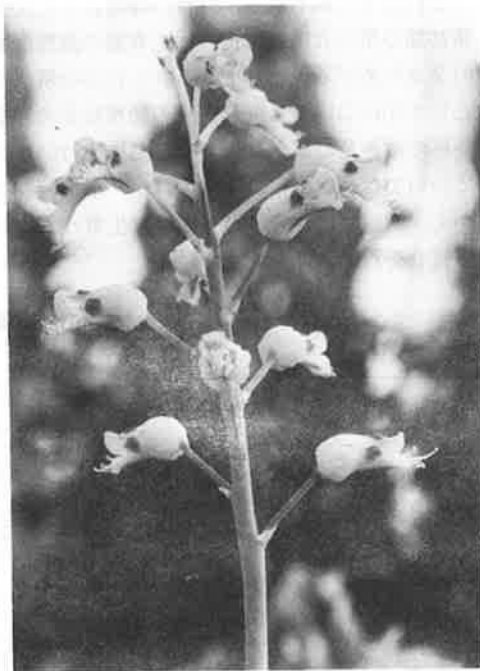
L. pallida Ait.

L. unifolia Jacq.

原産南アフリカケープ地方西南部 球根は小球性で直径1~2cmで白色球状。葉は1~2枚で先端は柱状となり長さ10~15cm, 基部に暗赤色の環輪がある。花梗は細長く明緑色, 基部に葉と同様の環輪がある。総状花序にまばらに横向き鐘形小花を10~20花つける。小花は白色で赤~青味を帯び, 先端に茶褐色の斑点がある。外花被片は内花被片より長く, 雄蕊は内花被片より長い。開花期は温室で2~3月。

栽培方法その他

用土, 肥料とも他のラケナリアと同様でよく, *L. pallida* は少し多肥で作れば大球になり, 1球当たり高さ30~40cmの花茎を2~3本つけ, 鉢花としてだけでなく切り花としても十分利用できると思われる。なお, 花もちも良く低温で2~3週間観賞でき, 園芸的にも有望な植物である。



L. unifolia Jacq.